

国宝・松本城

日本の中央に位置する信州は、美しい純白の雪を頂いた山国であった。北アルプスと中央アルプス、そして南アルプスが南北に走り、3,000m級の山々が迫って来る長野県。日本の屋根と呼ばれる長野県の隣接県はなんと8県に連なっている。県内には至る所に温泉地があり、リンゴ、巨峰をはじめとするフルーツ、そして日本有数の野菜の産地でもある。

県の中心部に松本市があった。ここでまず腹ごしらえいえば「信州そば」。春まだ浅いこの季節。外は肌寒く温かいそばにしたかったが、そばの旨さは何とんでも盛りそばである。少々値段は高めだがその土地の名物には値打ちがあるように思えた。



店を出ると目の前に国宝・松本城が聳え立っていた。これまで写真では何度も見たこともあり、初めて見たような気がしない親しみを感じた。松本城は室町時代末期 1504（永正元）年、この地方に大きな勢力を持っていた小笠原貞朝が築城させたもの。当時は「深志城」と呼ばれていた。日本国内に安土桃山時代後期から江戸時代にかけて、建造された天主を有する城郭の一つで、12基現存する天主の中では唯一の平城である。

天主閣の壁面の色が黒いからか、地元では「烏城」と呼ばれて親しまれているが、岡山県の岡山城も烏城と呼ばれていることを思い出す。この先人の遺産をもう少しゆっくりと見学したかったが、時間的余裕が許されなかったのが残念。 撮影 2010年春

